

# 平成 18 年 7 月 10 日に発生した蜃気楼

魚津蜃気楼研究会 藤田 一

## 1. はじめに

平成 19 年 7 月 10 日に発生した蜃気楼について魚津埋没林博物館(以下埋没林とする)の黒部市吉田科学館(以下吉田とする)、气象台、県内アメダスの観測値を利用し、発生時の気象状態を調査した。

## 2. 7 月 10 日 09 時の気圧配置

図1の地上天気図では台風3号が朝鮮半島付近にあり、梅雨前線は北陸地方まで北上し停滞している。埋没林の観測によれば、11時10分から18時50分にAランクの蜃気楼が観測された。

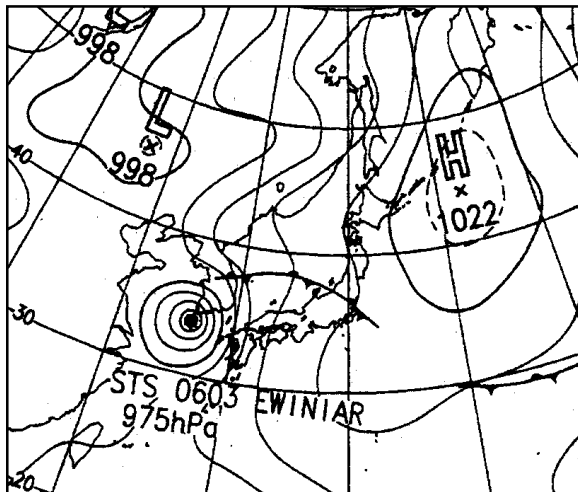


図1 7月10日09時の地上天気図



図2 観測地点分布図

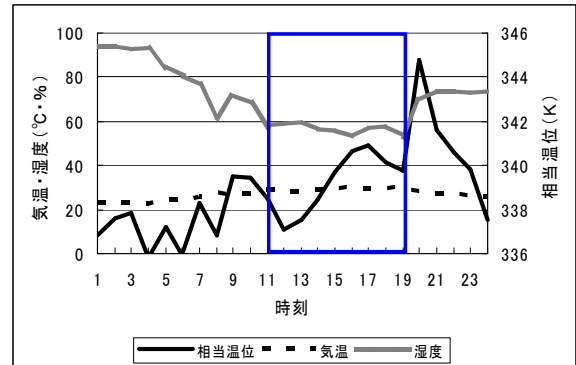


図3 埋没林地点

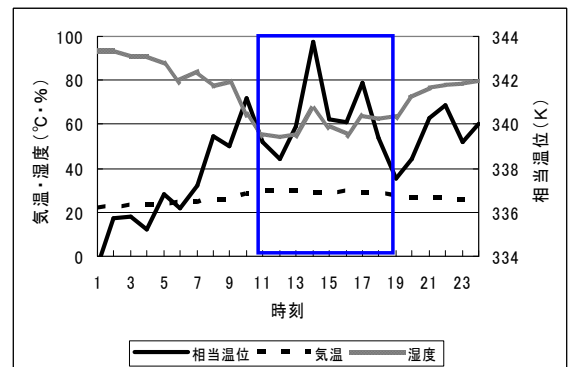


図4 吉田地点

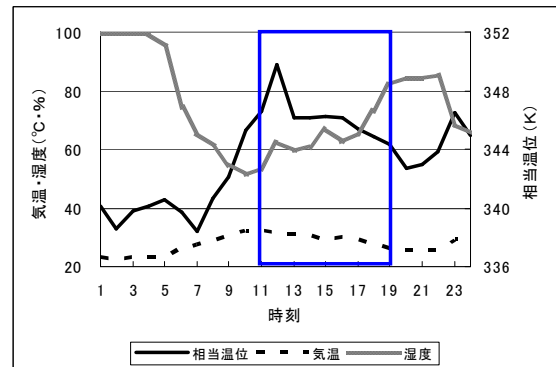


図5 富山地点

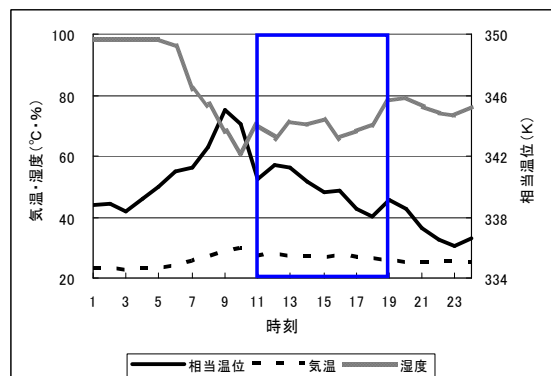


図6 伏木地点

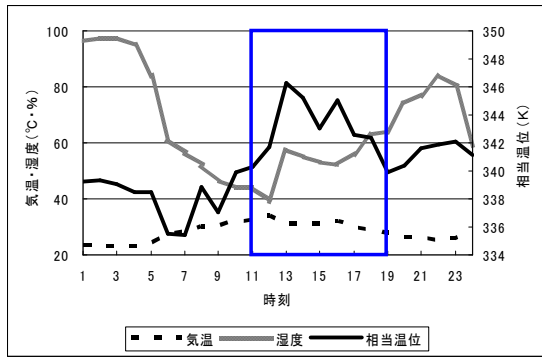


図7 秋ヶ島地点（富山空港）

### 3. 各地点の観測値の変化

埋没林、吉田、富山地方气象台（以下富山とする）、伏木特別地域気象観測所（以下伏木とする）、東京航空地方气象台富山空港出張所（以下秋ヶ島とする）で、気温（℃）、湿度（%）、気圧（hPa）、風向・風速（m/s）が自動観測されている（観測地点は図2参照）。図3～7は7月10日の各地点の気温、湿度と相当温位（K）の変化である（枠内は発生時間帯）。各地点では蜃気楼発生前から気温が上昇し湿度が低くなる傾向が見られた。蜃気楼発生時間帯は各地点の湿度は40～60%程度で変化しているが、相当温位は、埋没林、吉田は変化が激しく、富山、伏木は降下傾向、秋ヶ島は富山と似ているが発生後もしばらく上昇している。風の変化は典型的であった（図略）。

### 4. 各地点の気温分布

図8は、1℃/100で0mに補正した気温分布図である。09時では吉田で低く秋ヶ島で高い。12時では伏木を除く地点で気温は上昇したが、海岸付近は低く、15時は氷見、伏木で低い。時間とともに気温の低い場所が東から西へ移動しているように見える。図5の富山および図6の伏木でも気温と相当温位は低下傾向で、冷たい空気の移流を示している。

### 5. 推測

当日、内陸には気温が高くやや乾いた空気が流れ込んだ。相当温位が低くもとから海岸付近にあった冷たい空気が徐々に西部の海岸付近へ移動し滞留したのではないかと推測された。富山県付近全体に流れ込んだ暖かく乾いた空

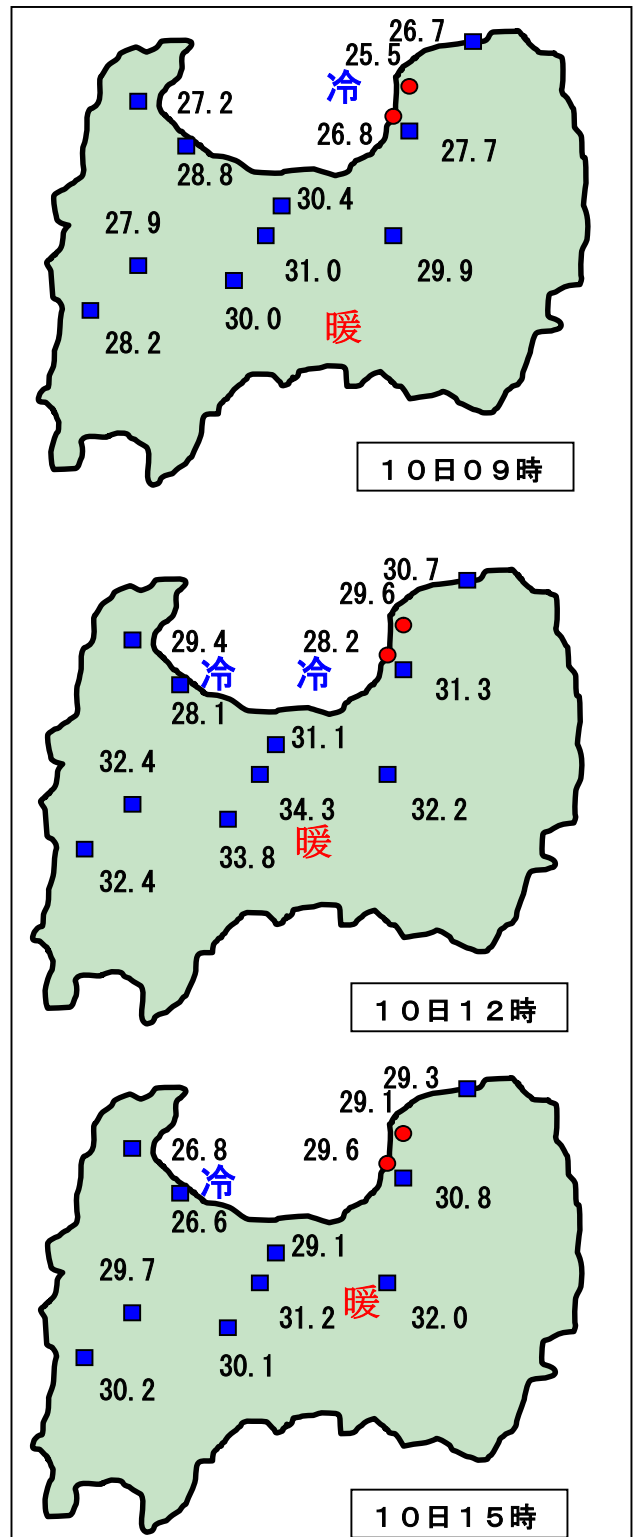


図8 時間別気温分布図

気と、海岸付近に滞留した冷たい空気により蜃気楼が発生したと考えられる。

### 6. まとめ

今回は通常とは違う時期の発生で1事例の解析であったが、今後は事例を増やして調査を行いたい。

利用資料 魚津埋没林博物館気象データ  
黒部市吉田科学館気象データ